

# 行歯会だより 第96号

(行歯会＝全国行政歯科技術職連絡会) 平成26年5・6・7月

## 【今月の記事】

- 1 平成26年度 第1回行歯会理事懇談会報告
- 2 第23回日本健康教育学会学術大会の開催報告  
北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 医療参事 佐々木 健
- 3 初参加の健康教育学会にて  
高知県健康政策部健康長寿政策課よさこい健康プラン21推進室  
主幹 吉田 有里

## ★平成26年度 第1回行歯会理事懇談会報告★

新年度がスタートし、第1回の理事懇談会が開催されました(12名参加)。  
今年度は第3期執行部2年目となり、「日本国民に世界最高水準の歯科保健を提供するために」行歯会として何ができるのか、新たな取り組みを実践するための検討を行いました。

日時 平成26年6月23日(月)午後7時～9時

場所 東京八重洲倶楽部 第6会議室

出席者 会長:長優子、副会長:高澤みどり、事務局長:安藤雄一  
事務担当理事:中村宗達、山田善裕、柳澤智仁、田村光平、加藤千鶴子、  
吉野ゆかり、石川明美  
ブロック理事:白井淳子、廣瀬友美

記録 石川明美



理事懇談会の風景

### ●報告事項

#### 1. 日本歯科医師会への訪問について

6月23日、日本歯科医師会へ長会長、中村理事、安藤事務局長の3人で訪問し、佐藤徹常務理事と、15時から1時間近く懇談した。行歯会が懸案と捉えている、厚生労働省に歯科衛生士を配置させる件について情報・意見交換を行った。このほか、「健やか親子」に日歯が提案したフッ化物塗布が目標に入らなかった経過や、フロリデーションに関する話題などについて情報・意見交換を行った。

2. 平成 26 年度会員名簿について(柳澤事務担当理事)

現在、名簿更新作業中である。未提出の都道府県世話役には再度催促の連絡を送った。更新と同時に入会案内をしている為、加入者の増加が見込まれる。

3. 歯っとサイトの運営状況について(安藤事務局長)

- ・行歯会と日歯に掲載サイトの自薦・他薦の依頼を行ったが、反応は乏しかった。
- ・5/29(口腔衛生学会時)に担当者による打合せを行い、充実に向けて動き出す予定。
- ・岩瀬先生の提案によりサイトの利用状況を把握できるようにした。

●協議事項

1. 5 歳児歯科調査の全国実施について(田村事務担当理事)

例えば静岡県では、5 歳児の重症むし歯有病者率を地域別に見ることが可能である。地域格差対策の一つとして、各都道府県の 5 歳児の現状把握について検討した。全国調査は大枠をとらえてからブロック単位で考えていったらどうか。

2. 会員アンケート第 2 弾(石川事務担当理事)

「歯科大、歯科衛生士学校での行政歯科技術職の講義状況に関するアンケート」 WebQ アンケートを実施予定。内容について検討した。

3. 行歯会だより 100 号特集について

H26 年 1 月 31 日の理事会案を元に、編集担当者を中心に検討してもらう。

4. 「健やか親子 21(第 2 次)」における目標値について

検討会において日歯がフッ化物塗布を目標値に入れるように提案したが、最終的には目標値から外れた。この経緯について情報・意見交換を行った。

5. その他

(1)厚生労働科学研究『乳幼児健康診査の実施と評価ならびに多職種連携による母子保健指導のあり方に関する研究』(高澤副会長)

- ・ 公衆衛生学会にて全国市区町村の状況把握を行った結果をポスター発表する。
- ・ 子どもの月齢・年齢に応じた保健指導のポイントの表が標準的な手引き書の考え方に載る。
- ・ 2 歳児健診・相談は 7 割が実施している。

(2)夏ゼミ(田村事務担当理事)

- ・ 6 月 20 日現在で 90 名の申込、そのうち東京都 27 名。
- ・ 三重は副市長も参加する市がある。
- ・ 来年は滋賀県で実施予定。

(3)公衆衛生学会自由集会

- ・ 栃木県宇都宮市にて、地元栃木県で展開可能な成人歯科保健対策をテーマに実施予定(代表世話人:青山、世話人:長、高澤、安藤)。

(4)「クインテッセンス」誌における特集企画

- ・ 月刊誌「クインテッセンス」誌の編集者にお出でいただき、同誌に行歯会関係者による特集として 6 回のリレー連載をする旨の企画案が提示された。詳細については行歯会側と相談して詰めていくことと了承した。

2 時間では協議しきれないほどの盛り上がり。その後、有志により場所を変えて「ささやかにアルコールと親しむ会」において、月曜だというのに、熱い議論が繰り広げられたようである・・・。

## ★第23回日本健康教育学会学術大会の開催報告★



北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 佐々木 健

2014年7月12日と13日の2日間、第23回日本健康教育学会学術大会を札幌市教育文化会館にて開催しました。プログラムは、一般発表（口演とラウンドテーブル合わせて81演題）の他、学会長講演、特別講演、学会奨励賞講演、シンポジウムと比較的シンプルな構成となりました。参加者数は約230名と、全国規模の学術大会としては小規模といえましょう。「健康教育」をテーマとする学会ですから、参加職種は、栄養士、体育の研究や実践者、医師、看護師、保健師、教員養成機関（大学教育学部等）の教員、歯科医師、歯科衛生士、カウンセラーなど多種多彩であり、他の保健医療系の学会とは明らかに雰囲気が違うのが特長となっています。福岡および関西のWell-Beingや川崎市歯科医師会などをはじめとする歯科関係者の参加も多く、特に今回はラウンドテーブル発表15演題のうち8演題が歯科をテーマとするものであるなど、歯科保健医療に関する実践や研究も、この学会では存在感を示しています。

しかしながら、筆者自身は、学会長ということで発表をしっかりと聴講することはできず、一番の思い出は学術大会の運営の大変さを実体験したことに尽きます。このような学術大会に参加したり、発表することは何度も経験していた筆者ですが、主催するのは初経験であり、参加者から見えにくいところでいろいろと面倒な実務があることを実感いたしました。もっとも、業務の大半を業者に委託していたため、かなり負担は軽減されていました。もちろん経費はそれなりに必要になりますが、運営のコツやツボに精通している業者の働きぶりは頼もしかったです。また、北海道歯科衛生士会、北海道医療大学、北海道教育大学などの関係者の方々には、当日の運営を中心に献身的にお手伝いいただき、いろいろな面で助けていただきましたこと、この紙面を借りて改めて深く感謝申し上げます。

なお、今回の学術大会の一番のセールスポイントは、地元の札幌市出身で、現在はNYを拠点に活動する映画「ハープ&ドロシー」の監督兼プロデューサー 佐々木芽生さんの特別講演でした。学術大会史上、映画監督が講師を務めるのは初めてということもあり、参加者の関心も高く会場はほぼ満杯となりました。「ゼロから実現した映画製作と配給の軌跡」というテーマで約1時間にわたり講演していただきました。同監督のデビュー作となった「ハープ&ドロシー」という映画は、NYに住むハープ（元郵便局員）とドロシー（元図書館司書）という夫妻を追ったドキュメンタリーです。この2人は、つつましい給料をやりくりして、1960年代はじめから当時無名で評価が定まっていなかった若手アーティストの作品をこつこつと収集し続けました。30年後、アーティストの多くは大成功して世界的に有名になり、夫妻の1LDKのアパートは2000点以上の美術作品で埋め尽くされ、2人は世界有数のアート・コレクターとして全米で知られるようになります。この2人は、コレクションを数点売れば裕福な生活ができたのに、最後まで1点も売ることなくすべて国立美術館に寄贈し、結婚当時と同じ小さなアパートで静かに年金暮らしを続けています。講演では、この事実を知って受けた衝撃を多くの人々に伝えたいという一心で映画製作へと突き進んだこと、製作中に遭遇したさまざまな障害をどのように克服したのか、さらには日本では配給会社に軒並み断られる逆境下、映画に感銘を受けた多くの方々の協力とネットワークで自主配給に漕ぎ着け、かつ優れた動員成績をあげ、映画関係者から「奇跡」と称されたことなどのエピソードが紹介されました。また、NYに定住する前のインドへの放浪の旅で学んだこと、そのインドのムンバイで出会った、スラム街で子供達に英語や空手を教えたりするなどの住民支援活動を一生懸命やっていた青年が、実はオーストラリアで銀行強盗をして逮捕され収監された刑務所から脱獄した国際指名手配

犯だった(人は肩書きや外見だけで判断してはいけないということを学んだ例として紹介)という監督自身のハープ&ドロシーに劣らない激動の人生の一端も披露されました。その他にも、ここで紹介しきれないさまざまなエピソードやメッセージが語られましたが、最後は、参加者に「幸せな人生とは何なのか?」「あなたがこれから情熱をもってやり遂げたいことは何か?」を問いかけるような内容でありました。参加者の集中度は高く、反響も大きなものがあり、講演後に販売された映画のDVDやパンフレットは短時間で完売するなど、事前の期待以上に盛り上がった特別講演となりました。

なお、今回は、2015年7月4日(土)~5日(日)に、吉田 亨先生(群馬大学)が学会長のもと前橋市にて開催されます。ラウンドテーブルというユニークな発表形式もありますので、みなさんぜひご参加ください。



吉田先生です

〈ラウンドテーブル〉

吉田先生ファシリテーターのラウンド風景です。

## ★初参加の健康教育学会にて★

高知県健康政策部健康長寿政策課よさこい健康プラン21推進室  
主幹 吉田 有里(歯科医師)

平成23年4月1日に「高知県歯と口の健康づくり条例」が施行され、それまで口腔顎顔面補綴学分野(旧第一補綴学講座)に所属していた歯科医師であった私が、高知県に配置されました。

ご想像通り、それまでは、学会といえば、「補綴学会」、「インプラント学会」等、およそ治療学ばかりの学会に所属しておりましたので、「健康教育学会」には、大先輩の佐々木健先生にお声をかけていただき、今年度、初めて参加させていただきました。

「初めての学会、しかも北海道、しかも初ファシリテーター」と、ドキドキワクワク、気合十分で北海道入りしたにも関わらず、開始時刻を間違えて、佐々木先生の貴重なご講演を前半聞き逃すという、大失態に始まりました。

しかしながら、今まで参加した学会の中でも、最も印象に残った学会になりました。

「人生が変わるのにどのくらいの時間を要するのか」、「幸福とは何か」。問われたら何と答えたら良いのか、戸惑うような命題に、特別講演では、佐々木芽生監督から、印象深いお話をいただきました。「何も分からなくても、誰も知らなくても、自分が決めたら、一瞬で人生は変わる」という、まだインドから日本への帰国途中の旅を続けているという佐々木監督の言葉は、とても心にしみるものでした。

「幸福とは、決して裕福であることや、社会的地位があることではなく」・・・こういう言葉は、

聞いたことがあるかもしれませんが、それを現実にしたハーブ&ドロシー夫婦のお話をもとにお聴きすると、重く響く言葉になるのだなと感じました。

ラウンドテーブルでは、別のラウンドテーブルでの議題が引き続いたり、それぞれの考え方や悩みについて、いろいろな視点から検討できていて、自分一人では考えつかないような答えをいただくことができました。2 日目のファシリテーターを務めさせていただいた演題では、最初、「沈黙が続いたらどうしよう・・・」と心配していたものの、実際はまったく心配なく、次々と意見を出していただき、私の出番がないまま、和気あいあいと終わりました。ファシリテーターをさせていただいて感じたのは、集まった方々のご意見を集中して聴くことができ、自分が発表するよりずっと勉強になるということでした。(今まで学会で発表した時には感じたことの無い感覚でした。)

いろいろな意味で、本当に貴重な体験をさせていただき、多くの人に出会えたことに感謝するとともに、この機会を与えてくださった学会長の佐々木先生他、関係者の皆様に深謝いたします。次の学会も、すごく楽しみにしています！

#### 編集後記

暑い暑いと思ったら、台風、台風で、久々に夏！といった感じです。県庁はクールビズで厳しい節電のため、ぐったりしていますが、新たな財政支援制度、少子化対策交付金...仕事は増える一方です。しかし、この忙しさはきっと歯科保健を拡大するためのチャンスであることは間違いなくと思います。この暑さもエネルギーに変え、乗り切りましょう。今後ともみなさまからたくさんの情報をお待ちしています。よろしくお願いします。(M)

夏本番！皆様お変わりないでしょうか？「行歯会だより」、いつ発行されるんだろうと思いの方もいらっしゃると思います。やっと、発行することができました。

次回から編集担当が交代し、新しい方が担当します。1年間、お世話になりました。今年度、研修会や学会等に参加予定の方、地域から先進的な取組報告など、「行歯会だより」で全国の実践者会員へ情報発信をしてみませんか。お声かけがありましたら、宜しくお願いします。(H)

「歯っとサイト」 掲載コンテンツ募集！

「歯っとサイト（歯科口腔保健の情報提供サイト）」

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/index.html>

では、掲載コンテンツを募集しています。

- ・ Web 媒体（リンクをはる）場合は、下記 URL へ

<http://www.niph.go.jp/soshiki/koku/oralhealth/youbou.html>

- ・ PDF 等のファイル媒体での提供も可能です。

希望される場合は、「行歯会だより」の配信メールに記載されている窓口宛に御連絡ください。